

基本構想（素案）に対する意見まとめ（案）について

審議会としての意見の方向性	第1回、第2回審議会での各委員の意見
1. 総合計画の基本に関する意見	
<p>ア 10年間という計画期間を前提に、新型コロナウイルス感染症や地方への関心の高まりなど、時代の潮流や課題を的確に捉え、ICT等の新たな技術や考え方等も取り入れながら、進められたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにまちは変わっているのか、あるいは文明とともにどのようにまちは変えられていくのかということも考えながらこれからの10年を捉えれば、やっていかなければならないこと、決めていかなければならないことが見えてくるのではないかと。 ・ウィズコロナで社会が大きく変わる中、地方回帰が言われ始めている。 ・県外から移住される方はこれからも増えるのではないかと。 ・10年後なので、デジタルトランスフォーメーションによる変化など、新しい未来が、より見えるような総合計画にしていければいい。 ・働き方改革などコロナ前からある課題と、新しい生活様式などコロナ後に新しく出てきた課題は、解決の時間軸が違うので分けて議論した方がいい。 ・コロナ禍により、東京一極集中から地方の価値が改めて顕在化したところがあり、若者をはじめとした地方回帰の動きも踏まえ、これを契機に新しい地域のあり方や鹿児島県の価値を考える視点が重要。 ・リモートワークの普及により、地方からでも仕事ができるようになり、色々な環境で働けるような状況になってきている。 ・稼げる産業を育成し、その果実をどう再分配するかが重要である。現状に「人口集中と過疎化、地域的・経済的格差の課題」や、10年後の姿に「安心して暮らせる」といった文言を入れてはどうか。 ・団塊の世代が後期高齢者になることや、8050問題に関する文言を入れてはどうか。
<p>イ 国籍、性別、年齢などを問わず様々な意見や視点を大切にしながら、具体的な取組を進められたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の方の目線をもっと大事にすべきである。 ・県外からの視点なども踏まえながら、具体的に進めていくべきである。 ・外国人の視点をもっと取り込む必要がある。 ・鹿児島市に住む外国人が今後増加することが予想される。これからは、若い労働力になったり、国際結婚して少子高齢化に対しても貢献したり、移住者として鹿児島に資産を持ってきて居住する可能性もあると思う。外国人がこれから増える点について言及が少ないのではないかと。
<p>ウ 心の豊かさや「人」に着目しながら、コロナ禍により再認識された人と人のつながりや支え合いを大切にす視点で具体的な取組を進められたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指標だけではなく、豊かな精神性とか、「人」に着眼する必要があるのではないかと。 ・人と人が顔を合わせながら何かを進めていく、深めていくというところをどう具体的にやっていくのか考える必要があるのではないかと。 ・新型コロナによって人と人のつながりの大事さに気づかされている。 ・高齢者にとって、元気をもらったり与えたり知恵をもらったり、共助互助の生活が重要。

審議会としての意見の方向性	第1回、第2回審議会での各委員の意見
<p>エ 言葉の注釈や例示の語順など、市民にとって分かりやすく、その意図が伝わるよう表現に留意されたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市像は、6つの基本目標の言葉をうまくまとめているが、若干長いのではないか。ワンメッセージでビジョンやスローガンを表現した方がより伝わるのではないか。 ・シビックプライドは用語の補足説明が必要である。 ・基本目標に「健全な財政の維持」という文言が入ってはいるが、今後、厳しい財政の中、何もかも行政頼みではまちづくりは進められない、そのための協働・コミュニティということであれば、その趣旨をもう少し明確に書いていいのではないか。 ・「市民や行政、様々な地域団体や事業者など多様な主体が協働・連携し」の部分は、語順の整理・工夫が必要ではないか。 ・基本目標の語順は、「ごみの3Rや適正な処理を進め」ではなく、「3Rによるごみの減量や適正な処理を進め」とすべきではないか。 ・基本目標の文言の中には、いくつかの業種や分野が例示されているが、市民が読んだときに、戦略的な分野で順番に並んでいると受け止められるのではないか。スポーツ、産業、商業、農林水産業などの優先順位の見せ方をどうするか。 ・スポーツ交流は五次総では文化と同じ政策にあったが、産業交流に移って稼ぐ力の一貫にしようという思いもあるかと思う。そういう面があるのであれば、そのことも表現してはどうか。 ・「街なか」は「まち中」としてはどうか。 ・基本目標の文頭に唐突に「結婚」と出てくるのは違和感がある。 ・基本目標の第一段落と第二段落を入れてはどうか。
<p>2. 基本構想（素案）各項目に関する意見 (1) 都市像、全般</p>	
<p>ア 鹿児島市の地域特性や固有の課題など、特色がイメージできるような表現を盛り込まれたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「躍動都市」という言葉は良いと思う。但し「都市の躍動」とは何をさすのか定義が必要。 ・他の自治体の都市像と比較して、特徴的なところを打ち出す必要があるのではないか。 ・都市像の中で示されている「人口減少・少子高齢化の進行、グローバル化やICT等新技術の進展、災害や感染症リスクの高まり」などは、全国的、平均的な表現になっていないか。

審議会としての意見の方向性	第1回、第2回審議会での各委員の意見
<p>イ 各基本目標間の連携や、社会における様々な機能等の複合化の視点を持って取り組むとともに、都市像と基本目標の関係についてわかりやすく整理されたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市像の中で、「そのため市民一人一人が互いに尊重し合い、個性と能力を発揮しつつ市民、事業者、鹿児島への思いを寄せてくださる多くの人々、関りのある団体など様々な交流により相互のつながりを深めることにより新たな価値が多彩な魅力を生み出し、人もまちも躍動する鹿児島市の創造を目指す」とあるが、ここは市民一人一人の努力を言われているように感じる。一方、信頼・共創政策の基本目標のうち、「健全財政の維持や効率的で質の高い行財政サービスの展開」は行政の努力である。具体的に、何をすれば、都市像につながっていくのか整理が必要。 ・社会における様々な機能や主体の複合化・協働・連携を率先、先導するという観点も重要（コミュニティ協議会、コミュニティスクール、地域包括ケア、まちなか図書館など） ・どの基本目標が都市像のどこにつながっているのか、都市像と基本目標の関係がもう少し分かりやすく入ってくるといいのではないか。 ・信頼・共創政策は横断的な概念を表していると思う。シティプロモーションなど、今後10年間でどう世の中が変わるか分からない中、ぶれない軸が通っていることで住んでいる人のプライドにつながるのではないか。 ・子育てにおける福祉は多様化してきており、障害のある子どもにかかる福祉関係の部分も大きくなり、学童保育も行われている。「学校」という文言だけが出てくると、福祉の部分が見えづらいので、もっと多様な場で育っていくという表現にできないか。また、鹿児島市のモデルとして、子育てに関しては、教育と福祉が融合するような方向性・表現の工夫ができないか。 ・キャリア教育は「信頼・共創政策」や「産業・交流政策」など、他の政策と連動・横断しやすく、本来、学力向上まで含めた用語である。表題に掲げるのが難しいのであれば、各論や重点プロジェクトに期待したい。まち・ひと・しごと戦略に入れ込むのであれば、若年者の地元定着にもつながるので重要だと思う。
(2) 基本目標	
① 信頼・共創政策	
<p>ア 総合計画の取組が具体化される中において、市民が鹿児島市の一員としてまちづくりに参画できるような環境づくりをされたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が、総合計画に示された施策・取組に、チームの一員として参加・挑戦できるような計画になればいいと思う。
<p>イ 多様性や人権を尊重するとともに、取組が具体化される中において、市民や事業者がどのような行動を取ればいいのか示されたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権についての項目が、前は5番目の「学びよろこびが広がる誇りあるまち」に位置付けられ、人権意識の向上や啓発に重きが置かれていたように思っていた。今回、一つ目の「信頼とやさしさのある共創のまち」に、「性別や年齢、国籍などに関係なく、一人一人の人権が尊重され、個性と能力を発揮できる地域社会を築きます」とあり、人権意識の向上、人権意識とは何かということが具体的に書かれており、とてもよい。 ・ICTを活用した働く環境づくりやLGBTなど価値観の多様性の部分があり盛り込まれていないように感じる。多様な社会を実現するために、どのようなアクションを取るかということまで盛り込めないか。 ・「性別」は「ジェンダー（社会的・文化的につくられる性別）」としてはどうか。 ・人権は憲法では「保障」となっている。「市民一人一人の人権が保障され」または「市民一人一人の人権を尊重し」としてはどうか。 ・社会の文化や慣習が公正でなければ女性は十分に能力を発揮できないので、「公正な社会規範の下、個性と能力を発揮できる」としてはどうか。 ・（「公正な社会規範の下」との文言を入れた場合）社会規範といえば法規を指すことも多く、語感の硬さもあり、誤解が生まれやすいのではないか。自治体が公平さや社会規範を決めたり評価したりする姿勢に見え、後退する気がする。また、「人権が保障され」や「人権を尊重し」など、強い語調や能動態にした場合、「公正な社会規範」と相まって行政の主観的なニュアンスまで入りやすい気がする。

審議会としての意見の方向性	第1回、第2回審議会での各委員の意見
ウ 大学等と連携した地域づくりに取り組まれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・中核市の中でこれだけ大学が集まっている都市は珍しく、本市の特徴的な部分であろうと思う。県外で発展している都市は大学とともに地域づくりに取り組んでおり、地域づくりと大学という視点を盛り込めないか。
エ 市民が地域に目を向け、地域行事やイベント等への参加など、地域づくりに関わるとともに、地域資源の発掘、また、それらの発信を通して、自らのまちに対する誇りや愛着を醸成されたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある資源をもう一度発掘したり見直していく必要があるのではないか。 ・全国あるいは世界の中でもきらりと光る都市になるポテンシャルが高い。 ・プライドを持っていくことが、人の育ちにも町の育ちにも重要である。 ・県都としての鹿児島市、もっと言えばアジアの中における鹿児島市とか、無意識かもしれないが、明らかに市民を形作っている「思い」「自信」といったものを計画立案に上手く取り入れていくべき。 ・ボランティアという言葉が何となく遠のいてしまっているのではないか。 ・コロナ禍でなかなか海外の人が、日本に、鹿児島に来られないと思うが、まずは、鹿児島市に住んでいる人たちが、自分たちの地元の良いところを知って、みんなの中で発信していけば、必ずコロナが明けるときがくるので、その時の準備になるのだろうと思っている。 ・信頼・共創政策は横断的な概念を表していると思う。シティプロモーションなど、今後10年間でどう世の中が変わるか分からない中、ぶれない軸が通っていることで住んでいる人のプライドにつながるのではないか。
オ ICTの利活用を、高齢者などにも配慮しながら、市民サービスの向上や社会課題の解決のために進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルトランスフォーメーションが言われているが、その要素が少ないと思う。 ・重点プロジェクトの中でICTで住みよいまちとあるが、どちらかといえば市民サービスが中心となっている。社会課題の解決に活用する視点を入れてもいいのではないか。 ・ICTは、お年寄りのことも考えながら、慎重に推進していく必要がある。 ・ICTを、便利になるツールとして必要な方に提供できる仕組みを作っていくべき。 ・ICTを使いこなせる若い人たちが、使いこなせていない世代の人たちに対して、地域でどんどん教えてあげるような活動ができればいい。
カ 国内外の都市との連携・交流においては、双方向で幅広い視点を大切にされたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・交流と言うと外から来ていただくイメージだが、交流には往来が大切であり、来てもらうだけでなく、こちらから出ていく事も重要。 ・国際交流については、年代に応じた交流ができればいいのではないか。
② 自然・環境政策	
ア 市民全体で環境政策に取り組んでいかれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関して市民全体で取り組んでいく表現を盛り込めないか。
イ 森林や海、川など多様な自然資源を生かされたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「緑あふれる、うるおいのあるまち」とあるが、鹿児島市は海が近く、自然は緑だけでなく青もあるのではないか。川や海など水に対することを入れるべきではないか。
ウ ゼロカーボンシティや3Rなどの取組を通して、環境政策を進めるとともに、行政や企業にとって強みとなるようなものとされたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゼロカーボンシティかごしま」はいい取り組みだが、ただ自然のためというだけでは意味がない。その取組自体が他都市より勝っているとか、企業の競争力を上げるというようなことに結び付けられないか。 ・ゼロカーボンシティや3Rに加えて、「アップサイクル」や「脱プラスチックシティ」といった視点も入れれば、他都市と差別化が図られ、稼げる鹿児島市につながるのではないか。
③ 産業・交流政策	
ア オンリーワンの魅力の創出や観光資源の活用を通して、地域経済の振興を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源を生かして潤っていくことはとても大事である。 ・オンリーワンの魅力創出が大事。
イ 文化芸術など他の政策とも連携を図りながら、産業・交流政策に取り組まれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツを楽しむことができる環境」とあるが、人が集うためにということであれば、文化・芸術・芸能なども含めるべきではないか。

審議会としての意見の方向性	第1回、第2回審議会での各委員の意見
ウ ICTに関わる人材の育成を進めるとともに、農林水産業など様々な業種においてICTを活用し、生産性を上げるなど稼ぐ力の向上に取り組まれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県のICTの分野、ITの人材という部分でいうとまだまだ人が足りていないと思う。 ・ICTを活用した産業は、ICTの業態だけでなく、ICTを活用して農林水産業などの生産性を上げるとか、商品開発をするといった着想につながるような表現があればいい。
エ 働く人のワークライフバランスを大切にしながら、地域などでも活躍できるような環境づくりを進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳ある働き方、尊厳ある生活が基本にあるべきではないか。 ・多様で柔軟な働き方は、どのような働き方を想定しているのか分かりにくい。いわゆる非正規雇用が労働力の調整弁にできるような働き方も含んでいるのではないかと受け取れる一方、ワーケーションやテレワーク、複数拠点などの働き方もある。要はワークライフバランスであり、「ワークライフバランスを実現しつつ多様な働き方を支援し」としてはどうか。 ・共創の観点から、働き方改革の中で市民の利益や住んでいる所に目を向けられれば、コミュニティ協議会などの活性化につながるのではないかとと思う。働き方改革について、地域活性化の視点を取り入れていただきたい。
④ 健康・安心政策	
ア 地域と行政がしっかり役割分担をしながら、連携・協働を通して、市民一人ひとりが自分らしく生活できる地域づくりに取り組まれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・「健やかな暮らしを支える福祉サービスを充実するとともに、共に助け合い、一人ひとりが自分らしく生活できる地域づくりを進めます」という言葉の中には全て入っていると思う。ただ現実には、地域で困っている人は本当に些細なことで困っており、「支え合い」だけでは補えない部分もある。行政が主導し、コーディネートできればと思う部分もあるので、「自分らしく生活できる地域づくり」というところに、その内容が入ればいいのではないかと。
⑤ 子ども・文教政策	
ア 家庭や地域全体での子育て支援等を通して、鹿児島モデルと言えるような、安心して子育てができる都市づくりを進め、鹿児島市の強みとなるよう取り組まれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指す都市像とはなんだろう」と思うと、フレーズとしては、やはり「安心して子育てできるまち」ということではないか。 ・安心して子育てができる、鹿児島市が好きだという人が増えていけば人口流出は防げる。 ・本来は子育て支援の中の一つとして待機児童対策があるべきなのに、待機児童対策をすることが子育て支援だ、という捉え方のずれみたいなものがないか。家庭での子育ての支援、あるいは、市・地域によって支えられる子育てのあり方などにも着目し、子育ての「全体が支えられている」という共通意識・方向性が現れてくるといい。 ・国の施策を後追いするような形だと、少子化が進んでいるのに待機児童問題が深刻化するという、矛盾するような状況に鹿児島市も陥りかねない。国の施策に基づかないといけない部分は多々あるが、市独自の、鹿児島モデルと言えるような子育ての都市づくりが重要。 ・子育てをするまちなんだという希望を裏切らないという方向性が打ち出せないか。
イ 多様な考え方を大切に、市民の希望をかなえる観点から、結婚、妊娠・出産、子育ての支援に、市民や事業者を含め、社会全体で取り組まれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・「支援」は市民に対する支援という意味だと思うが、事業者の教育という意味合いも含ませることができればと思う。 ・「切れ目のない」という表現は、結婚から出産、子育てまでつながっているように見えるが、それぞれ個別の選択だと思う。結婚への考え方や性自認の多様性も社会的に認識され、ジェンダー平等が言われる中で適切か。 ・待機児童の改善も大事だが、経済的な理由で結婚が難しい方や、経済的な理由で子どもをつくりづらい方々への支援も必要だと思う。

審議会としての意見の方向性	第1回、第2回審議会での各委員の意見
<p>ウ キャリア教育やICT教育、リカレント教育について、基本計画や重点プロジェクト、実施計画における具体的な取り組みにおいて取り入れ、鹿児島市の強みや若者の地元定着、産業政策に生かされたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の表現に、国としても強く推し進めている「キャリア教育」がないのは残念。教育の情報化も含め、先進的でエッジの効いたキーワード、鹿児島市の強みを押し出す表現がどこか1つあればと思う。 ・キャリア教育は「信頼・共創政策」や「産業・交流政策」など、他の政策と連動・横断しやすく、本来、学力向上まで含めた用語である。表題に掲げるのが難しいのであれば、各論や重点プロジェクトに期待したい。まち・ひと・しごと創生戦略を入れ込むのであれば、若年者の地元定着にもつながるので重要だと思う。 ・「生涯学習環境の充実」について、学び直しは、労働者が異なる職種へ転職する際やデジタル化など時代に合わせてキャリアアップしていくためのものでもある。産業政策としての視点での、夜間中学なども含む高校や大学との連携も含むものとして、取り組んで頂きたいと思う。
<p>エ 文化財を含め、地域の文化を掘り起こし、活用する視点をもって取り組まれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には活用できる文化財がたくさんあるのではないかな。 ・「豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち」には「文化」という言葉がない。「豊かな個性」に地域文化という考えが入っていると思うが、誰もが生涯に渡って学び続けることができる環境を整えるほか、「地域文化や文化芸術」というように「地域文化」を具体的に入れてはどうか。
⑥ 都市・交通政策	
<p>ア 市街地のみならず、農村・中山間地の安心な暮らしの確保に取り組まれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地だけでなく、里山があるような農村、中山間地の暮らしが取り残されないような視点が必要。

その他	その他
<p>その他の意見、基本計画・実施計画の検討にあたり参考にするもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの浸透について、行政がもっと主導すべきではないか。 ・鹿児島市のイベントは面白いものも多く、若者が積極的に参加している。 ・基本構想・基本目標については、まさにそうだなと思う。 ・いろいろな課題も網羅されている。 ・都市像の響きが良い。(第五次総合計画の)「みどり」というのも良かったが、「彩り」は多様性を表しており、言葉だけでカラーが見えるような感じもする。「躍動」はブランドメッセージの「マグマシティ」とも重なり音まで聞こえてくるような感じがする。全国や世界に通用する高いポテンシャルを一言でよく表している。 ・いわゆる公助、公によるセーフティネットがベースにあるべきだ。 ・基本目標は大体網羅していると思う。 ・戦争を知らない高齢者が出てきた。 ・ネットワークのダウンに備えるべき時代になるのではないか。 ・Wi-Fiが鹿児島市は都市部に比べたら圧倒的に整っていないと指摘されていた。ICTに関する部分は、そういった部分も具体的に変えていった方がいいのではないか。 ・ご主人の転勤で鹿児島市に來られた谷山在住の方が、(PLAY CITY! DAYSの)イベントのおかげで谷山が好きになった、鹿児島市や鹿児島県のことが好きになったという方もいらっしゃった。 ・年を取ってくると、医療・福祉関係が一番大事であると痛切に感じる。 ・一人暮らしの方があまり外に出られず、体力低下や認知症の問題が出てきている。 ・子どもたちの自己効力感、自己肯定感が下がっていると言われている。プライドを持っていくことは人の育ちにも町の育ちにも重要であり、基本目標に「誇りあるまち」とあるのはとてもよい印象。 ・子どもたちがもっと伸び伸び歩いていけるところもあるといいなと感じている。 ・子どもたちが遊べる、お年寄りも健康を維持できる観点での施設整備が重要。 ・特別支援について、今後もっと力を入れていかなければならないのではないか。 ・鹿児島港は、鹿児島市はもちろん、離島を支えている。地震で鹿児島港が揺れると、離島の人の生活も守れなくなる。 ・前期の重点プロジェクトの方向性は、かねてから課題に感じている部分でもあったので、この3点が挙げられているのはよいと思う。